



祐介の目

No.123

大田祐介 (福山市議会議員)

選挙の投票率

衆院選・県知事選・呉市長選等が終わった。まず衆院選7区では小林史明氏の圧勝であったが、投票率は前回を少し上回るも50%に届かなかつた。最低は37%の高西町、他の選挙でも常に市内最低の投票率である。最高は山野町の68%、この地域差の原因は何だろうか？投票率の高い地域には何か表彰制度があっても良いように思う。

小林氏が得票を伸ばした分の候補が減らした。つまり選挙に行く人は限定されており、その中で投票行動に変化があっただけかもしれない。コロナ禍において選挙スタイルも大きく変化した。小林氏は大規模な演説会を廃し、街頭演説中心の選挙活動となったが、大学生や一般社会人も街頭に立ち応援弁士を務めていた姿が印象的だった。しかも私なんかよりはるかに立派な内容であり、新しい時代の到来を感じさせた。

一方で県知事選は35%の投票率、さらに多数の郵便局長が有給休暇を取得してポスターを貼った件が明るみになった。県内約八千ヶ所の掲示板に一齐に貼るには組織の協力が無いとできないが、選挙のたびに送られてくる効果不明の選挙協力は避けて通れないのだろう。湯崎知事は街宣車なし、出陣式もなし、オンライン集会のみの選挙活動で政策は浸透したのか、運動不足が投票率に現れたと思う。

一騎打ちとなった呉市長選は多くの政党・団体が支援した現職が僅差の勝利、大接戦と盛り上がったが投票率は48%と低かった。政党や団体の支援の効果に「？」が付いた選挙だったと言える。

福山市の投票所において記念品としてローラちゃんのシールを配布しているが、効果があるのか？安芸太田町の高校生が「行きたくなる投票所」を目指して投票所に隣接してカフェを開設した例もあり、福山市選挙管理委員会も同様の取り組みに期待したい。政治に無関心でも無関係ではいられないのだから、良い関係を作るよう投票率向上に向け国民一人一人が努力するしかない。